



## アフガニスタン・カブール

# アフガンの民主主義化が 民主主義のアフガン化か

世界銀行シニアエコノミスト 石原陽一郎

**WATCH FIRE**

【開発途上国の明日】



**「民**

主義」という言葉は、アフガニスタンの人の耳に

どう響いているのか？ 8月20日、5年に一度の大統領選が実施される。首都カブールでは候補者のポスターが所狭しと張られているが、治安上の理由か、日本のように候補者が選挙活動する姿はない。テレビ、ラジオ、新聞などが主な広報手段だ。

女性候補を含め、40人以上が立候補しているが、強い権限を持つ5年任期の大統領を、自分たちで決めるという雰囲気は感じられない。

大統領の直接選挙は民主主義の一つの指標だが、この国での民主主義が本来の目的を果たしているかは疑問だ。選挙の前に主要候補の間で調整が行われた構図は、過去の内戦時代と同じで、選挙での実質的な選択肢は相当限られている。また、治安上の理由から投票が不可能な地域や、選挙管理委員の殺害も報告されている。国民の意図が反映されない大統領直接選挙は、民主主義のアフガニスタン化といってもいいだろう。

最新の世論調査では、国の将来に対し、悲観的な見方が楽観的な見方を上回る結果が出ている。将来への希望にあふれていた前回の大統領選のときは大きく違う。治安悪化、汚職、貧困など、問題が山積するアフガニスタンにとって、これから誕生する新政権が無駄にできる時間は残されていない。(写真も筆者)